



(株)大和 静岡工場（農場）現状報告 1月号

この冬は大変な寒さが続いています。この寒さは茶樹にとっては、とても必要なことです。

秋に施した有機肥料がデンプン質へと変化しながら根に蓄えられ、根の活動が始まる3月中旬までぐっすり冬眠ができるからです。冬眠できない気温ですと、冬でも根が活動するので養分の貯蔵が足りず、栄養たっぷりの新芽が育ちません。健全な根が育つ土を作れるかが、お茶づくりの最大のポイントです。

当園では、昨年末に10kmにわたる河川堤防のヨシの草刈りをおこない、それを裁断して茶園に敷きつめました。また、10月からダンパーカー150台分のもみがらを集め、米ヌカ、菜種粕、VS34の発酵菌で2ヶ月間発酵させた、“もみがら堆肥”とサトウキビの絞り汁から出る“廃糖蜜”を混ぜて、1月から茶園に敷きつめます。この土壌を耕すことで有機物が土とよく混ざり、良質の土になっていきます。これが本当の土づくりです。茶園にこれだけのモノを毎年施している茶農家は日本広しと言えど、当園だけと自負しております。



【根気よく草刈りをします】



【サトウキビを粉碎します】



【茶樹の間にビッチリと撒きます】



【もみがら堆肥の発酵熱による煙】



【ようやく完成したフカフカの土】



【さらにもみがら堆肥を撒きます】